

## 英語学習者に力を与え、明日の世界を切り拓く人々を支援する教育カンパニー

### Morrow World

未来の世代が 2020 年代初頭を振り返るとき、歴史の教科書はこの時代をどう描写するのだろうか。おそらく、「COVID-19 が世界を停止させた時代」、「生成 AI が世界的現象となった時代」と記されるのではないだろうか。

数年間にわたり、人々の移動は厳しく制限され、留学や国際旅行はほぼ消失した。一方で、AI はネイティブスピーカーさながらの流暢さで英語やその他の言語を生成できるまでに進化を遂げた。

しかし、そんな時代だからこそ、人生を変えるような留学・ワーキングホリデー体験の重要性と価値、そして人と人をつなぐツールとしての英語の力を信じる起業家がいる。株式会社 Morrow World の創業者兼 CEO、諸澤良幸氏だ。彼は、明日の世界を切り拓く人々をエンパワーすることに取り組む会社のリーダーである。

#### ワーキングホリデーが生んだ、留学コンサルタントという使命

諸澤氏は、常に今この瞬間に全力を注ぐ男だ。日本のレジャー・観光会社で 4 年間働いた後、起業への想いを募らせていた。23 歳のとき、まだ大学 1 年生だった弟が自分より先にスタートアップを立ち上げたとき、彼の負けず嫌いな性格に火がついた。「自分のビジネスアイデアを見つけなければ」。そう決意した諸澤氏が向かった先は、海外だった。

フィリピンでの語学研修を経て、彼が降り立ったのはオーストラリア、シドニー。ワーキングホリデービザを手に、異国での挑戦が始まった。このビザでは、最長 6 ヶ月間、同じ雇用主のもとで働くことができる。最初に雇われたレストランでは、空いたグラスに飲み物を注ぎ、料理を提案するなど地道な努力を重ね、短期の外国人労働者でありながら、ついにはマネージャーに昇進した。



Morrow World 社員集合写真① (写真：株式会社 Morrow World)

次に働いた農場では、数え切れないほどのリンゴやジャガイモを収穫し、1 日あたり最大 400 オーストラリアドルを稼ぎ出すこともあった。

これらの冒険から、彼の中に強い確信が芽生えた。「自分の人生を大きく変えてくれた留学やワーキングホリデーという『挑戦』を、もっと多くの人に体験してほしい」。

そして 2015 年 11 月、諸澤氏は留学エージェンシー Morrow World を創業した。

## ENGLEAD：一人ひとりに寄り添うオンライン英語コーチング

Morrow World の留学サポートサービス「[タビケン留学](#)」は、試行錯誤を重ねながらも着実に成長した。2018 年までに海外 100 校以上との提携を実現し、オーストラリアのシドニーとゴールドコースト、フィリピンのセブに現地オフィスを構えた。2020 年には、プロ野球選手やプロゴルファーといったアスリートの海外研修旅行も手がけるまでになっていた。

その矢先、パンデミックが発生。留学エージェンシーとして先行きの見えない不確実な状況の中で、諸澤氏は、留学が実現できなくなったすべての顧客に対して全額返金を行う決断を下した。

「人生を変える留学体験を提供できないのであれば、返金こそが唯一の誠実で責任ある選択肢だ」。

その年の 6 月、彼はオンライン英語コーチングサービス「[ENGLEAD](#)」を立ち上げた。従来、対面での濃密な交流が不可欠だと考えられていたコーチングを、オンラインで提供する形へと転換し、学習方法の最適化、時間管理の徹底、そして一人ひとりの状況に合わせた個別のモチベーションサポートを有機的に組み合わせたプログラムを設計した。



Morrow World 社員集合写真（写真：株式会社 Morrow World）

このプログラムでは、学習者の英語レベルだけでなく性格まで分析し、コーチが一人ひとりの個性を深く理解し、その人に最もフィットする方法で寄り添うことを可能にしている。

立ち上げから 5 年半、ENGLEAD は、市場シェア、受講者数、カリキュラム数において日本をリードするオンライン英語コーチングサービスへと成長し、Morrow World も従業員数 150 名を超える企業へと拡大した。

## 諸澤氏の想いを込めた、意味あるブランディング

「名前は願いであり、ブランドは約束である」

日本では、親は子どもに未来への願いを込めた名前をつけることが多い。諸澤氏の名前「良幸(よしゆき)」には、「良い人生を、幸せに生きてほしい」という願いが込められているように。

諸澤氏にとって、会社名やブランド名も同じ重みを持つ存在だ。それは単なる呼称ではなく、事業に込めた志そのものである。

- Morrow World: 諸澤氏の苗字の「Moro(モロ)」と「tomorrow(明日)」を組み合わせ、「明日の世界を切り拓く人々をサポートする」という使命と「明日の世界を切り拓く企業でありたい」という願いを表現している。
- タビケン: 「旅」と「経験」を組み合わせ、「世界へ旅立つ経験をあなたに」というメッセージを込めた。
- ENGLEAD: Electronic(E)、English(Eng)、Lead を組み合わせ、「オンラインサービスを通じ、英語力を効率的に向上させることで、理想的な自分への姿へと導くサポートを提供する」という想いを表現している。

同社は、peco やバイリンガールちかといった著名なインフルエンサーとコラボレーションを展開。さらに、元サッカー日本代表選手である小野伸二氏へ英語コーチングを提供した実績を持ち、現在は公式アンバサダーとしても起用している。しかし諸澤氏は、こうした華やかな実績も「あくまで目の前の人に向き合った結果に過ぎない」と強調する。「私たちが何よりも大切にしているのは、表面的な広告ではなく、本物の信頼関係です。だからこそ、まずは自分たちがサービスの価値を心から信じ、それを体験してくださった方々が自然と周囲に広げていきたくなるような、本質的なクオリティを追求し続けています」。

### **Morrow World：人を中心とした会社**

「サービス企業として、Morrow World の最大の資産は人です」と諸澤氏は断言する。

この信念を表現するため、彼は採用率わずか 0.3%という厳しい選考を通過した英語コーチを含め、全従業員と1対1の面談を行っている。

同社では、従業員が完全リモート勤務か完全出社勤務かを選択でき、その選択が評価やキャリアアップに不利に働くことはない。



バーチャルオフィス（写真：株式会社 Morrow World）

また、全従業員がレトロなロールプレイングゲームを思わせるバーチャルオフィスを使用しており、自分のアバターを同僚のアバターに近づけると、自然に会話やチャットが生まれる仕組みになっている。これにより、リモートワークにありがちな孤独感が軽減され、誰が会議中なのか、あるいはコーチングセッションを行っているのかも一目で把握できる。

さらに特筆すべきは、福利厚生が多くが従業員からの提案で生まれており、「まずやってみよう」という会社の文化がそれを後押ししている。顧客に対するときと同様に、社員とも真摯に信頼関係を築く姿勢こそが、Morrow World に国内外から素晴らしい人材が集まる理由となってる。

### **挑戦を支援し、明日の世界を拓き続ける**

諸澤氏の次なる目標は、単なる業界での規模拡大ではない。会社としてのミッションを追求し、世界へ挑む一人ひとりに最高の価値を提供しながら、共に働く従業員へも最大限の還元を行っていくことだ。

諸澤氏は、人と人とのコミュニケーションの力、「相手と直接向き合い、意図を伝え、信頼を築くこと」を深く信じている。AI が主流となりつつある時代であっても、人と人とのつながりは、いかなる技術でも代替できないものだ、彼は確信しているのだ。